

フィールド風

(現場)からの

宮田守男

1月15日、白馬村は局地的降雪で午前10時に積雪が100センチを超えた。1月までに1メートルを超える雪が積もるのは10シーズンぶりと全国に情報発信された。

降雪による倒木被害が発生し、交通トラブルが生じたが道路除雪関係者の昼夜による作業により多くのお客様を地域に迎えることができた。平年で積雪が最も多くなる時期は1月下旬から2月ごろとなるため、まだピークを迎えていないと考える。と辛い気分になってしまおう。

テレビで気象キャスターとして活躍した天気博士の倉嶋厚さんの「黙って降る雪」と題した東北や北海道の雪を題した一文がある。青森県のことわざに「黙って降る雪は余計に積もる」がある。今

回の降雪は、まさに黙って降る雪と表現しても良いのだろう。屋根から雪庇のように張り出し、落下して窓ガラスを破損してはいけないと、除雪作業が続き自分の歳が起因する体力不足を痛感するが、国立社会

保障・人口問題研究所は2050年には全国の1人暮らし世帯の割合が44・3%に増え5世帯に1世帯は65歳以上の単身世帯になると推計している。元総務大臣で多くの

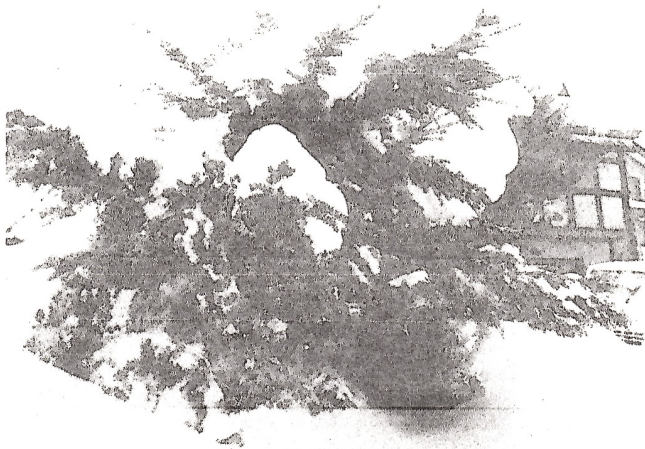
雪害対策に新たな視点が求められている

役立つ所であり、役人は役に立つ人」と。厄介なことが起きると一緒に知恵をひねり、困った人に手を差し伸べるべき。と論じた。伊勢正三さんの「そんな暮らしの中で」の歌詞に「2センチ足らず

の雪が科学の街東京を一日でぬり替えるその変わらぬ雪の色に人は何を思うだろう」と都会を白く染めた雪景色を歌った。雪の少ない地域からこの地域で生活する人が増え続けている。雪国暮らし

に慣れた感覚ではなく、この異常な降雪により困窮している世帯には、ぜひ多く支援の手を差し伸べてほしいと願っている。ネット情報で「外国人観光客がローカル線に殺到」の記事。北海道二セコに関

る輸送体制の充実が望まれている。(信州地域社会フォーラム会員・白馬村森上)



湿った雪が多く、樹木に重く降り、自然の厳しさも伝えている。